沈渣　[尿]	6000
	担当部署
尿沈渣	一般

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→
	2	電子カルテ→指示①→検査→*5.尿・便・その他→
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		採尿方法 1）早朝尿、随時尿、中間尿、運動負荷後尿、前立腺マッサージ後尿など 2）自然尿、カテーテル尿、膀胱穿刺尿、分杯尿、回腸導管などの尿路変更術後尿など
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	中間尿を採取する
検体採取の特別なタイミング	早朝尿が望ましい

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	新鮮尿	２３スピッツ	なし	10	mL
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	1）採尿後４時間以上経過した検体 2）蓄尿 3）バーコードのない検体 4）量不足（採取が困難な場合はできるだけ検査を行って尿少量参考値とコメント入力する）
保管検体の保存期間	保存不可（追加検査については検査室に要問合せ）

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部
測定時間	60 分（外来診察前優先して測定をするため、病棟検体では 60 分以上かかる場合がある．）
生物学的基準範囲	赤血球：4 個/ＨＰＦ以下、白血球：4 個/ＨＰＦ以下。扁平上皮細胞、硝子円柱：健常人でも少数認められる。 EX 共通 CL1002：「臨床検査法提要改訂第 32 版，2005」
臨床判断値	なし

基準値				単位	なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし

パニック値	高値	該当なし
	低値	該当なし
生理的変動要因		月経血の混入（赤血球） 帯下、膣分泌物の混入（白血球、細菌、酵母様真菌、扁平上皮） 激しい運動に伴う脱水（硝子円柱多数）
臨床的意義		尿沈渣検査は腎・尿路系のスクリーニング検査では最も有用性がある検査である。尿を遠心沈殿させ、得られた沈渣を光学顕微鏡で鏡検する。尿沈渣成分には血球類・上皮細胞類・円柱類・塩類結晶類・微生物類等の成分である。通常は大部分が腎・尿路系に由来する成分が主体であるが、一部は血液成分が尿中に排泄され有形物として検出されたものである。 EX 共通 CL1141：「臨床検査法提要改訂第 35 版,2020」